

次期男女共同参画せんだいプラン策定に向けた市民意見聴取の実施報告について

【第1回 ワークショップ】

1 概要

- (1) テーマ 進めよう「地域や職場における女性活躍」
- (2) 日時 令和6年8月24日(土) 15時45分～17時15分
- (3) 場所 エル・ソーラ仙台 市民交流スペース
- (4) 参加者 21名(内訳:一般参加者17名、せんだい男女共同参画財団インターン(学生)2名、仙台市男女共同参画推進審議会委員2名)

2 ワークショップでのご意見(抜粋)

(1) 地域や職場で女性たちがリーダーシップを発揮することで、本人や周囲、仙台のまちへどんな影響があるか

- ・女性や若い世代が入ると、今までのやり方にとられない町内会のあり方・手法を議論できる。話し合いが活発になる。
- ・多様な状況のリーダーが増えることで、さまざまな人にとって働きやすい職場となる。
- ・ロールモデルが増え、次世代の子どもたちが多様な女性リーダーをイメージしやすくなる。
- ・いろいろな(多様な)生活がある社会になる。
- ・日頃から女性がリーダーシップを発揮することで、災害時にも女性が声を上げることができる。

(2) 女性たちがリーダーシップを発揮していく上で、必要なことはなにか。また、妨げとなっていることはなにか。

○必要なこと

- ・女性が声をあげること。周囲が女性の声を聴くこと。
- ・チームの皆で女性リーダーをサポートするという意識。
- ・リーダーシップを発揮する女性を批判しない。失敗を責めない。応援する。
- ・多様なリーダーシップを認めること。
- ・変わることを怖がらない雰囲気づくり。
- ・個と個の違いを受け入れる。

○妨げとなっていること

- ・アンコンシャス・バイアス
- ・女性のケア役割の負担が大きく、仕事との両立が難しい。
- ・変化を好まない社会や組織

(3) より多くの場面で女性がリーダーシップを発揮していくために、あなたはどんなことができると思うか。

- ・「やってみよう」「やってみて」「やってみていいんだよ」
- ・おかしいと思ったことにおかしいと言う。
- ・「私なんか」撲滅作戦!
- ・誰かが談じる「あたりまえに」に「そうかな?」と突っ込みを入れる。
- ・完璧を求めない。リーダーとしても、フォロワーとしても。
- ・「できるかも!」「できるよ!」
- ・小さなことからリーダーシップを発揮してみる。そうすれば慣れる!

【第2回 参加型企画展示】

1 概要

- (1) テーマ みんなで描く「男女平等のまち・仙台」
- (2) 日時 令和6年11月15日（金）～11月17日（日）
- (3) 場所 エル・パーク仙台 5階ロビー（男女共同参画推進せんだいフォーラム内）

2 参加型企画展示でのご意見（抜粋）

- ・育休取得日数が男性も女性も同じ日数になっている社会へ
- ・女性の地位向上 男女平等 男女同権を
- ・おかしいことに気がつかない 気がつかない
- ・生活そのものを楽しみを見出せると家事も楽しいと思えるかも… そのためには仕事が長時間だとつらいなあ。
- ・おかしいと思ったら「声」をあげよう！だまっていたら社会は変わらない。
- ・そんなに近い関係性でなくても気軽に声をかけやすい地域づくりが大事だと思います。すべての人はかけがえのない人
- ・DVや性暴力の根絶は性教育から始まる！
- ・男性が、家事育児できるよう長時間勤務のない社会を作る
- ・性別は「男女」だけじゃない！すべての性の人たちに平等を！
- ・古い「イエ制度」を止めよう
- ・有償労働、ケア労働、どちらも大事なもので等しく尊重されてほしいです。何を選んでも暮らしていけるようになってほしいです。
- ・LGBTQ内でも「トランス」「バイセクシャル」差別をなくそう！！自分たちでも差別していませんか？
- ・小6、中3生が卒業する前の時間、「人権」や「民主主義」のあるべき姿と現実の違いについて、希望を伝えたい
- ・今思えば夫婦別姓でよかったなあ 母の世代ほどではなかったけれど昭和時代の私は“嫁”の立場になんとかからまりつかれていた。
- ・いじめ、パワハラ、DV、差別など、「ぜったいに許されない」と社会、地域、学校、組織全体でメッセージを出していこう！！
- ・性別の区別は必要かもしれないが差別は不要！性別以前にみんな等しく「人」です。
- ・男性が相談できる場所も増えていくといいと思います。
- ・一般的に勤務している人は「定年」がある。なんで議員にはないの？だから、いつまでも老人ばかり 若い人が育たないのでは？
- ・男性も女性も自分が望む人生を生きられる世界になりますように。
- ・子どもを守る！！そのためにがんばる！！
- ・市民が主役の取り組みを。
- ・働き方を選べる社会を望みます。（育児・介護に柔軟に対応）
- ・男性だって生きづらい。
- ・ヘイトのない社会に！

【第3回 ワークショップ】

1 概要

- (1) テーマ 考えよう「DV・性暴力の防止と支援のあり方」
- (2) 日時 令和7年1月18日（土）15時45分～17時15分
- (3) 場所 エル・パーク仙台 セミナーホール2
- (4) 参加者 26名 （内訳：一般参加者20名、仙台市男女共同参画推進審議会委員6名）

2 ワークショップでのご意見（抜粋）

(1) DVや性暴力を受けた人に、どんな支援があったら良いと思うか。また、支援を届けるために何が必要か。

- ・自分の被害に気づいていないこともあるので、「困ってから」ではなく「困りかけ」の段階での相談。
- ・相談のハードルを下げるために、
 - 電話や対面での相談はハードルが高いので、メール・チャット形式など多様なツール。
 - カフェや図書館など、相談場所だとわかりにくい場所や気軽に相談できる場所。
 - こどもの検診の際に親も相談できる。
- ・「困ったら相談していいこと」「相談先はいろいろあること」を学校の中でも教える。
- ・相談したいことがわからなくても、モヤモヤしていることや気持ちの整理を気軽に話せる場所。
- ・「なんでも話せる・話していい」間口の広い男性向けの相談先。
- ・被害者自身ではなく、被害に気づいた人が支援者として相談できる相談窓口。
- ・被害を受けていることを認識していない人に気づいてもらう。
- ・企業研修でハラスメントと合わせてDVや性暴力を取り扱う。
- ・情報を取りに行かなくても入ってくること。
- ・周囲がDVや性暴力に気づく目を育てる。
- ・被害者への専門的な精神的なケア、経済的支援。
- ・加害者、被害者双方へのアプローチ。加害者がこれはDVだと理解するための支援。
- ・「No」を伝える練習。

(2) DVや性暴力をなくすために、私たちができることはなにか。

- ・「大丈夫ですか？」では伝わらない。わかりやすく、具体的に問いかける。「言いたいことが言えていますか？」「あなたにとって心地いい関係ですか？」
- ・小さい頃から「No」と拒絶していいことを教える。
- ・被害者にも加害者にもならないように関係を傷つけない言い方や相手との関係性の築き方を学ぶ。
- ・身近な人から相談された際に「これってDVかも」と思える知識を得る。
- ・「聴く」ことから支援が始まる。
- ・相手の話を否定しないで聞くこと。
- ・小さなことでも性暴力。笑いにしないこと。
- ・身近なこどもの被害に気づける大人になりたい。